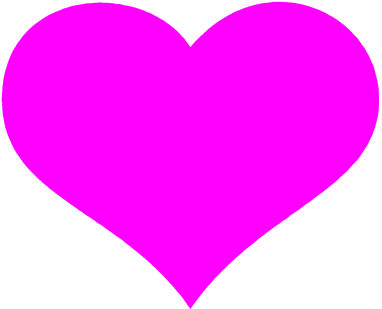


自作教具の活用事例

【作品名】 うれしくなる言葉	【学校名】 日立市立櫛形小学校
【活用できる領域・教科等】 自立活動（情緒の安定）	【制作者名】 木村 裕子
【制作の意図】 本学級に通級してくる児童には、自分の気持ちを適切に伝えられず、トラブルになったり、誤解されてしまったりすることがある。そこで、自分が言われてうれしくなる言葉集めをすることで、感情を上手にコントロールできるようにすることを目的とした。	【使用の方法】 教師は、ピンク色のラシャ紙を半分程度の大きさのにハート形に切っておく。 児童はいろいろな場面を思い出しながら、短冊に言われてうれしくなった言葉を書いて貼る。
【制作上の工夫】 児童と共に、うれしくなる言葉を集める活動を通して、本教材を作成した。自分の書いた言葉を「こんな時に、この言葉を言われてうれしかった。」と発表しながらハート型のラシャ紙に貼ることで自分の思いを伝えるようにした。教室内に掲示して、常時見ながら意識できるようにしている。	【見取り図】 台紙  縦 80cm 横 90cm位 短冊を20枚程度貼ることができます。
【写真】 	
【材料・材質・部品等】 ラシャ紙（ピンク） 短冊（色画用紙1／8） マジック	【使用効果と応用発展】 自分と同じ言葉の短冊を見て、友達も同じ気持ちになったことに気付くことができた。 様々なうれしくなる言葉を集めることで、友達への声かけの仕方を考えるきっかけとなった。